

編輯後記

○皇紀二千六百一年の佳き年、悠久

の國基搖ぎなく、聖戰已に五年に

及び、歐洲の動亂は世界動亂の口

火となつて觸發の機、愈々皇國の

使命重大を加へて参りましたこの

秋、會報第十一號を發行する事が

出來ました事を御報告致します。

○本號には特に諸橋先生から玉稿を

戴く筈でしたが、先生の

長い御病氣の爲其機を得ず、甚々

卷頭寂寥の感なきにしもあらずで

すが、何卒御宥願ひます。

○先輩石島快隆氏より玉稿を戴きま

した。で卷頭に載せ御厚志に感

謝致します。これは漢文學會々報

(第六號六四頁―八二頁) 所載の

「頼山陽を想ふ」の續きでござい

ます。

○時局柄、用紙節約、頁數減少等の

通牒に接し、本會々報の發行にも

多少の變更を餘儀なくせられまし

た。即ち従來の年二回の發行を一

回に、内容は會員の研究論文を主

とする事に致しましたから何卒御

諒解願ひます。

○種々の事情により昨年末發行のも

のが、遅れに遅れ申譯ありません。

次號は本年秋頃御手許にさし上げ

る事が出來ると思ひます。

○會員皆々様の御健闘を御禱り致し

ます。

(昭和十六年一月 内田記)

漢文學會々報 第十一號

昭和十六年二月十五日 印刷

昭和十六年二月二十日 發行

【非賣品】

東京文理科大學漢文學會

編輯者 仲井眞盛信

東京市小石川區林町四一

印刷所 太陽舎印刷株式會社

東京市小石川區林町四一

印刷人 小谷實

東京市小石川區大塚窪町

發行所 東京文理科大學
漢文學會